

(ご参考資料)

2010年12月2日

株式会社博報堂DYメディアパートナーズ

コンテンツホルダーの収益機会拡大をワンストップで支援するサービス「C・A・P・P(キャップ)」を開始 ～スマートデバイス向けのアプリケーション開発とプロモーションをパッケージにして提供～

株式会社博報堂DYメディアパートナーズ(本社:東京都港区、社長:大森壽郎 以下博報堂DYメディアパートナーズ)は、コンテンツホルダーに対して、資産として保有する映像・画像・テキスト・音源などを活用したスマートデバイス向けのアプリケーション開発と、ユーザーへのアプリケーションの認知を促進するためのプロモーションをパッケージにして、コンテンツの再価値化および収益機会拡大を支援するサービス「C・A・P・P(キャップ)」を開始します。

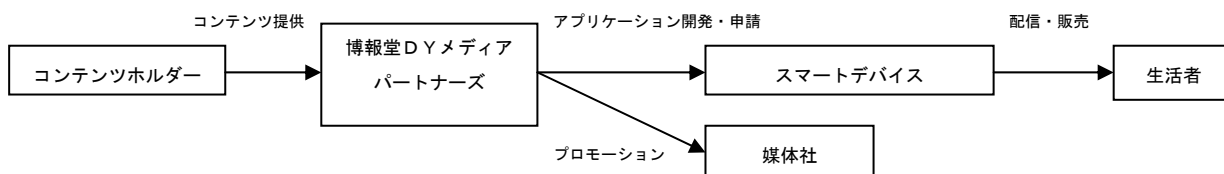
現在、優良コンテンツを保有するコンテンツホルダーにとって、スマートデバイスへのアプリケーション配信は非常に魅力的な収益機会となっており、多数の企業や個人事業主が参加してきています。しかし一方で、コンテンツホルダーにとって、アプリケーション開発のコスト負担、またアプリケーションがひしめき合う競争環境の中で認知促進を行うことは、どちらも実施には費用も手間もかかります。

「C・A・P・P(キャップ)」は、コンテンツホルダーのパートナーとして、「コンテンツ」の「アプリケーション化」に関する「プロモーション」と「プロデュース」を支援するという意味の名称です。総合メディア事業会社としてコンテンツホルダーや媒体社と協業している博報堂DYメディアパートナーズならではのサービスで、スマートデバイス向けに多数のアプリケーションを開発している実績、また媒体社との良好な関係をもとにしたプロモーションによって、コンテンツを再価値化し、それによって収益拡大の支援を可能にします。「C・A・P・P(キャップ)」はコンテンツの魅力を最大限に引き出すことのできるアプリケーションを開発し、コンテンツごとに異なるユーザーターゲットを見極め、それにあった媒体の選定と効果的なプロモーションを提供します。

「C・A・P・P(キャップ)」によるアプリケーションの第一弾として、テレコムスタッフ(本社:東京都港区、社長:佐川泰宏)と開発した「太宰テレビ NHK太宰治短編小説集」を11月15日(月)に配信を開始しました。

博報堂DYメディアパートナーズは、当社の有する全てのリソースを活用することによって、コンテンツホルダーの資産であるコンテンツの再価値化と、それにとまなう収益機会の拡大を積極的に支援してまいります。

■「C・A・P・P(キャップ)」ビジネススキームイメージ



■この件に関するお問い合わせ先

博報堂DYメディアパートナーズ 広報グループ 山崎、舟橋 03-6441-9347